

課程 全日制

教科	家庭	科目	サステイナブルライフ	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書	教科書なし								
副教材	担当教員が作成したプリントを使用								

1 科目の目標と評価の観点

目標	家庭基礎で学習した内容を踏まえ、生活の営みに係る見方や考え方を働かせ実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協働し持続可能な社会生活を主体的に営むための知識や技能を習得する。持続可能な社会の構築に向け、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を育成する。		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯を見通した生活に関する諸課題に関心を持ち、科学的に改善を目指す知識や技能を身につけている。	持続可能な社会に向けて地域や生活、社会に関する課題を設定する。解決策を構想、調査、考察し論理的に表現し課題解決をする力を身に付けている。	よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組み、家庭や地域の生活を創造し、実践しようとしている。
評価項目	・授業プリント ・製作物	・レポート内容 ・発表内容 ・ICT機器の活用状況	・出席状況 ・発表状況 ・授業への取り組み状況

2 学習方法等

話し合いでは積極的に発言する。製作物・プリント・レポートの提出期限を守る。タブレットも積極的に活用しICT教育を行うため準備する。

3 学習及び評価計画

(評価の観点 a) 知識・技能 b) 思考・判断・表現 c) 主体的に取り組む態度

	月	教材	時数	単元と学習内容	評価規準
1 学期	4月 5月 6月	プリント等	22	オリエンテーション 自分・家族 子ども（実習）	
2 学期	7月 8月 9月 10月 11月	プリント等	33	高齢者 社会福祉 食生活（実習・実験） 衣生活（実習・実験） 住生活（実習）	各分野に関する知識・技能を身に付けている。(a) 思考力・判断力・表現力を身に付けている。(b) 主体的に取り組んでいる。(c)
3 学期	12月 1月 2月 3月	プリント等	15	消費・環境 災害に備える（実習）	

合計 70時間

課程 全日制

教科	家庭	科目	フードデザイン	単位数	3	学年	3	科	全学科
教科書			フードデザイン					実教出版	
副教材			フードデザイン 学習ノート					実教出版	

1 科目目標と評価の観点

目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートについて体系的・系統的に理解し関連する技術を身に付ける。食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を解決する力を育成する。食生活の充実向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。		
評価の観点	① 知識・技能 栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどフードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し実践できる知識と技術を習得している。	② 思考・判断・表現 多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め食生活の充実、向上を目指して自ら課題を発見するとともに家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって課題を解決できる。	③ 主体的に学ぶ態度 人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るため学ぶ姿勢を身に付け食材を適切に選択し総合的に捉えて主体的に計画や実践できる。知識や技術を家庭や地域で積極的に活用し食育推進に協働して取り組むことができる。
評価項目	・定期考查 ・学習ノート ・授業プリント	・学習ノート ・定期考查 ・発表内容 ・レポート内容	・出席状況 ・発表状況 ・授業への取り組み状況

2 学習の注意事項

- ・実習や話し合いに積極的に取り組む。
- ・食品衛生に配慮した身支度で実習に取り組む。
- ・毎時間、教科書・学習ノート・タブレットを活用するため必ず持参する。
- ・学習ノートやプリント、レポートの提出期限を厳守する。

3 学習及び評価計画

学期	月	教材	時数	学習内容	評価規準
1 学期	4月 5月 6月	教科書 学習 ノート プリント	35	・健康と食生活 ・調理の基本 ・調理実習 ・栄養素の働き ・災害と食事計画 ・調理実習 ・食品の特徴 ・食品衛生と安全 ・調理実習	各单元（健康と食、栄養素の働き、災害と食事、食品の特徴、食品衛生と安全）に関する知識やそれを活用した技能を身に付けている。(a) 災害時の食事を想定した食事計画を立てることができる。(b) 災害時の食や食の安全性を高めることに关心を持とうとしている。(c)
2 学期	7月 8月 9月	教科書 学習 ノート プリント	45	・食品の特徴 ・調理実習 ・日本人の食事摂取基準と食品群別摂取量 ・調理実習 ・食と環境 ・未来の食を考える (SDGs 関連の課題解決学習) ・調理実習	各单元（食品の特徴、食事摂取基準、食品群別摂取量）に関する知識や技能を身に付けている。(a) 食と環境に関する課題設定を行い、科学的に解決する力を身に付けてい。(a,b,c) 食事摂取基準と食品群別摂取量に基づいた献立を立てることができる。(a,b,c)

2 学 期	10月		<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携による信州学 (長野県無形文化財) ・食育と食育推進活動 (食育推進の取り組み) ・調理実習 ・料理の様式（日本、西洋、中国） ・調理実習 ・ライフステージと食 ・調理実習 	<p>長野県無形文化財である郷土料理や料理様式、食育、ライフステージと食に関する知識や技能を身に付けている。(a)</p> <p>郷土料理を継承していくためにアイデアを提案することができる (b)</p> <p>信州学・食育・料理様式・ライフステージと食に関する関心を持とうとしている。(c)</p>
	11月			
3 学 期	12月	25	<ul style="list-style-type: none"> ・食文化を見つめる ・テーブルコーディネート ・調理実習 ・食生活の課題 	<p>各分野（食文化、テーブルコーディネート、食生活の課題）に関する知識を身に付けている。(a)</p> <p>和食文化を理解し食文化の伝承法を提案できる。(a,b,c)</p> <p>主体的に目的別のテーブルコーディネートができる。(a,b,c)</p> <p>食生活の課題を科学的な視点から解決することができる (b)</p>
	1月			
	2月			
	3月			

合計 105時間

課程 全日制

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	学年	1	科	工業科
使用教科書	Agenda	家庭基礎	実教出版						
補助教材等	Agenda	家庭基礎準拠	学習ノート	実教出版					

1 学習の到達目標

生活様式の多様化が進む現代社会において、主体的に生活を営み、生活の充実向上を生活の営みに係る見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う。さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 授業は、教科書や副教材など指示された教材を準備する。
- 課題は、全て実施し提出期限を守る。
- 授業中は、学習ノートやプリントを主体的に取り組む。
- よりよい社会の構築に向けて、主体的、対話的で深い学びにおけるグループワークやペアワークを行う。課題解決のために話し合い、レポート作成、発表等の活動に参加する。
- 自立に必要な知識と技術の習得に心掛ける。
- 家庭生活では、授業で学んだ事柄について積極的に取り組む。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境について理解していると共に技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定する。解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現して課題解決する力を身につけている。	さまざまな人と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組む。地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を改善と創造し、実践しようとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考查 ・学習ノート ・授業プリント ・調理実習、制作物 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業活動への取り組み状況 ・発表 ・I C T 機器の活用状況 ・提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・授業活動への取り組み状況 ・発表 ・I C T 機器の活用状況

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a)知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学 期	4	・生活設計 自分・家族	教科書 学習 ノート プリント	25	青年期の自立 家族・人生・生き方 家族に関する法律 栄養と食品 栄養素の働き 食品の安全性 豊かな食生活の背景 食事をつくる①	各单元における知識や現状と課題について理解している。(a) 各单元の内容に関して、考察できる。(b) 授業での話し合いや実習に主体的に取り組んでいる。(c) 調理を科学的に理解し、完成できる。(a, b, c)
	5	・食生活				
	6					
2 学 期	7	・災害に 備える	教科書 学習 ノート プリント	30	住まいの安心・安全	各单元における知識や現状と課題について理解している。(a)
	8	・ホームプロ ジェクト			持続可能な社会 S D G s	課題設定、解決方法を考え、 計画的に実践している。(b)
	9	・消費と 環境			高齢者を支える制度と しくみ 共生社会の実現	実践を効果的にまとめ、他者と 共有できる。(b, c)
	10	・高齢者 ・社会福祉 ・子ども ・消費	やさしく 学べる		子どもと遊び 子どもの権利と福祉 意思決定と契約 消費者問題 消費者保護	各单元の内容に関して、主体的に 考察できる。(b) 授業での話し合いや実習に積極的 に取り組んでいる。(c)
	11	・住生活	消費生活 2024		消費者力検定 消費者力検定 住まいの選択	消費者力検定に主体的に取り組 むことにより、消費者力を身に つけている。(a, b, c)
	12	・食生活	教科書 学習 ノート プリント	15	食事をつくる②	調理を科学的に理解し、完成で きる。(a, b, c)
3 学 期	1	・衣生活			衣服の機能 衣服の材料 衣服管理 安心して衣服を着る 基礎縫い これからの衣服 (サスティナブル ファッション)	被服の機能と着装、被服材料に について理解している。(a) 衣服管理、着装、これからの衣 生活について主体的に考察でき る。(b) 実習に主体的に取り組み完成で きる。(c)
	2					
	3					

合計 70 時間